

令和4年度 宇佐市在宅医療・介護連携多職種研修会 アンケート結果
 (第1回 認知症対応力向上研修会) 令和4年9月28日開催

- 1,研修会申込者 118名(講師1名、事務局8名除く)
- 2,アンケート返却 100名
- 3,アンケート返却率 85%

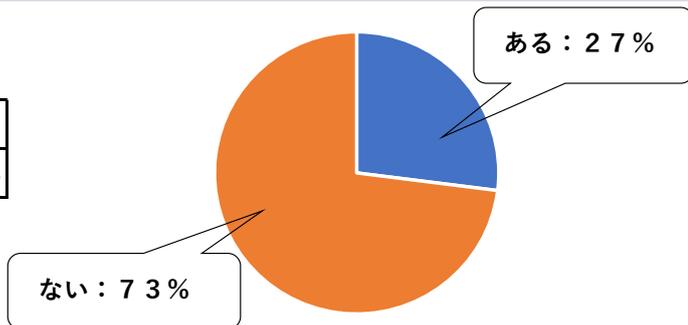
【問 1】 貴方の所属機関において主としている業種の職種をお答えください

医師	15
歯科医師	3
薬剤師	7
保健師	1
看護師・准看護師	18
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	3
社会福祉士・医療ソーシャルワーカー	6
介護支援専門員	21
相談員・生活相談員	7
介護福祉士	5
ヘルパー・訪問介護員	1
管理職	1
事務職	3
その他	9
計	100

介護職：1
 健康運動指導士：1
 認知症予防教室担当：1
 認知症ボランティア：1
 行政：1
 未回答：4

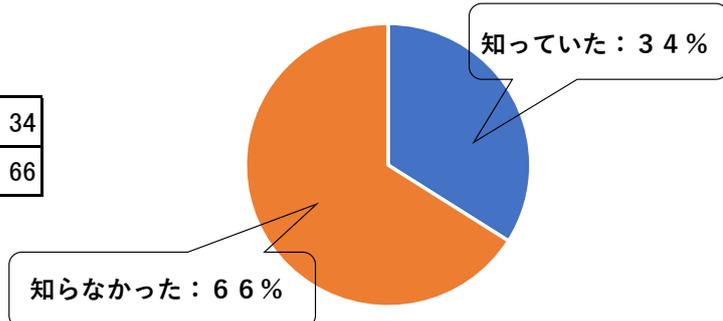
【問 2】 これまでに、若年性認知症の研修を受けたことがありますか

ある	27
ない	73



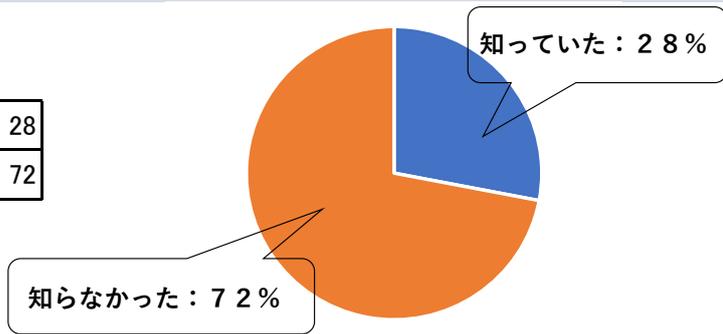
【問 3】 以前から、若年性認知症支援コーディネーターを知っていましたか

知っていた	34
知らなかった	66



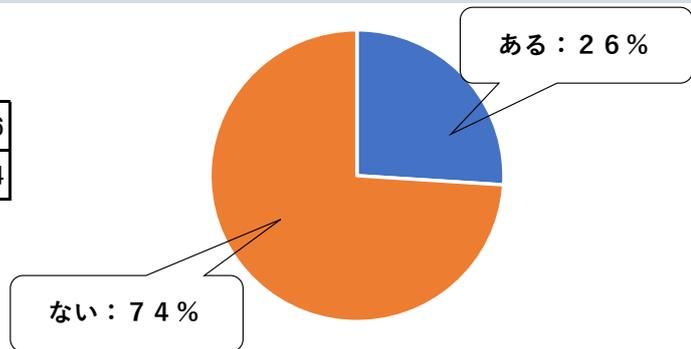
【問 4】以前から、若年性認知症支援者向けガイドブックを知っていましたか

知っていた	28
知らなかった	72



【問 5】若年性認知症の方に関わったことがありますか

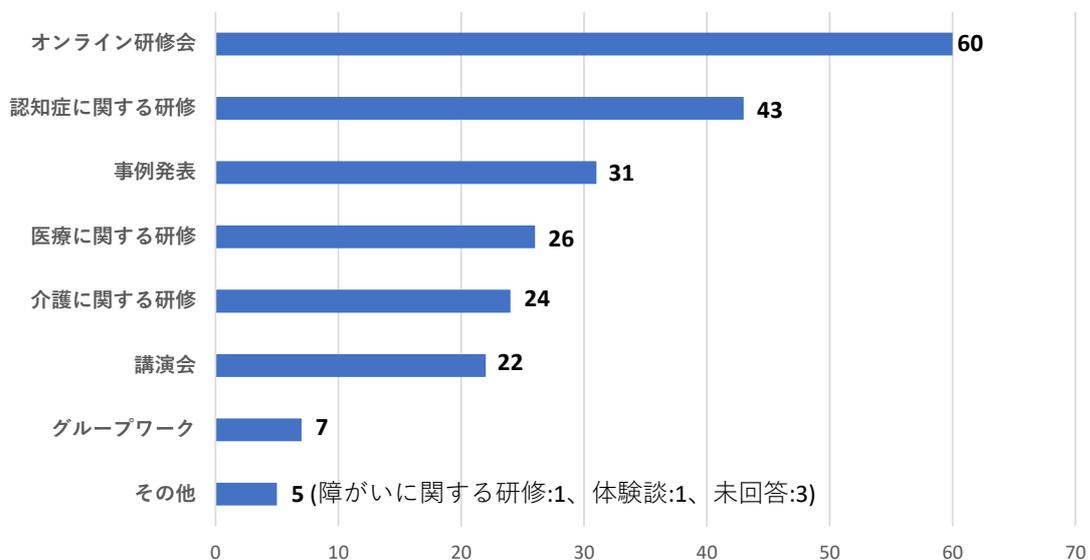
ある	26
ない	74



【問 6】若年性認知症について知りたいこと(質問)などを記載してください

- ・現在、事務局で回答を作成中です。回答が出来次第、当センターホームページに別途掲載しますのでご確認をお願いします。

**【問 7】今後取り上げてほしい研修会の方式やテーマがありましたらお選び下さい
(複数回答可)**



【問 8】 本日の研修会で印象に残ったこと、ご意見、ご感想を教えてください

《医師》

- ・事例発表が、具体的で興味深かったです。
- ・貴重な情報をありがとうございました。
- ・多種職の連携が必要である。
- ・解りやすかった。途中で子供の声が出て、煩かった。
- ・河面文先生の話は大変わかり易く大変勉強になりました。

《薬剤師》

- ・初めて知ることが多く、とても勉強になりました。
- ・大分県に、なでしこガーデンのような施設があることを知りませんでした。
- ・事例人と自分の年齢を重ねて少し心配事が増えた。
- ・若年性認知症患者さんと接したことはありませんでしたが一定数いることを学びました。患者さんやご家族は大変な思いをされていると考えられます。根本的な解決とならないまでも相談できる窓口があることは大変心強いと思われれます。何らかの相談を受けることがあれば紹介したいと思います。
- ・実際の事例を紹介して頂けたので、若年性認知症の患者さんの実態を理解しやすかったです。

《保健師》

- ・事例などを通してコーディネーターや関係者がどのように関わっているか学ぶことができました。

《看護師・准看護師》

- ・事例紹介を通し、具体的な支援を知る事ができて大変勉強になりました。
- ・事例を通しての若年性認知症の方々の実際、身近に経験がないので興味深く学べました。
- ・当事者が笑顔で生活できるための活動支援、地域の資源作り、できるだけ多くの職種で考えていけたら良いですね。
- ・若年性認知症の本人や家族の声を聴くことができよかったです。また、連携できる関係機関が具体的にわかったこともよかったですと思います。実際にかかわることがあり、本人や家族の戸惑いが大きいため、精神的Followが必要であり難しいと感じています。ありがとうございました。
- ・私は53才です。人の名前を思い出さなかったりすることがあります。他人ごとでは無いと強く感じました。社会生活や家庭での役割を果たせなくなる不安や焦りを想像するだけでも怖くなります。支援者が周囲を巻き込み患者さんをサポートする。サポート体制が徐々に確立されつつあることを知り学ぶことが出来ました。 高齢で認知症状を持つ患者様と関わる機会が多くなってきています。認知症の対応研修等で学んでも現場では対応に悩むことが非常に多いです。主病の治療を終え退院すれば終了なのではなく、患者さんを取り巻く環境にも配慮し、認知症状を持つ患者さんが退院後も安心して生活出来るよう家族支援、地域へ繋げる支援が出来るようになればと思います。
- ・以前家族の不調を相談されたことがあります。あまりの若さに、家族も病院受診せず、私も若年性認知症の疑いを持ちながら聞くにとどまっていた。数年後若年性認知症の診断を受けたと聞きました。本日の講演で初期対応や、様々な援助の道があることを知りました。どうしたらよいかわからなかった場面に、少しでも相談相手となれるといいなと思いました。貴重な講演をありがとうございました。

- ・私は看護師ですが、住んでいる地域の方から病気のことや施設のこと医療に関わることをよく周りから相談を受けます。今回若年性認知症について学べたことで日々の生活の中でそのような症状を持った方と接したとき、家族に相談を受けたとき、気持ちに寄り添ってその家族を支えられる存在になれればと思いました。微力ですが地域の中でコーディネーターの方々の力になりたいです。
- ・若年性認知症の方への対応やサポートの仕方など、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・資料が分かりやすかったです。
- ・40-50代で病気を発症され不安をかかえている方へ関わるのでピアサポートをされている方からの声かけで前向きになれた方、当事者だからわかることなど病気になっても本人らしく生活できるよう支援ができていることはすばらしいと感じました。
- ・研修ありがとうございました。
- ・ピアサポーターの存在を知らなかったのが、印象に残りました。ありがとうございました。
- ・若年性認知症者の受け入れ場所が少ない。支援事例は大変勉強になった。
- ・連携の必要性を感じた。

《理学療法士・作業療法士・言語聴覚士》

- ・これまで関わったことの無い若年性認知症という病気を持たれている方に対しての関わり方を学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・分かりやすかったです。ありがとうございました。
- ・若年性認知症の方とのかかわりはとても難しく、繊細なのだなあと感じました。もっと若年性認知症について知りたいです。勉強します。

《社会福祉士・医療ソーシャルワーカー》

- ・若年性認知症支援コーディネーターの活動を知る事ができ良かったです。また5事例も事例報告をして頂き理解を深める事が出来ました。
- ・若年性認知症のサポートはこれからだと思いました。サポーター河面さんの活動が尊いです。ありがとうございました。
- ・高齢者に比べると若年性認知症の方は少なく、それ故に資源が少ないと感じていた。また、もしあったとしても都市部に集中していると思う。支援の方法、寄り添い方についてもっと学んでいきたいと思った。
- ・社会に役割のある人、不幸じゃないと思える人を結果進行を遅らせることができているのではないか。そのためにも地域の受け皿やサービス事業所を増やすこと急務であると思いました。
- ・若年性認知症コーディネーターの活動があって関係機関とのつながりが円滑に支援できていると感じました。その他、ピアサポーターの活動について興味を持ちました。介護・医療はもちろんのこと障がい(相談支援事業所、就労支援事業所など)とのつながりが大切であると感じました。

《介護支援専門員》

- ・とても参考になりました。知らなかったことが沢山ありました。ありがとうございました。
- ・研修ありがとうございました。
- ・認知症だからとあきらめてしまわずに、ゆっくりわかりやすく話す事ができるように気を付けていきたいです。その方の得意分野を探し出し、笑顔で過ごす時間が持てるような支援をしていきたい。

- ・若年性の認知症にいつ自分になるかもしれない。本人の希望に寄り添い支援することの大切さを改めて感じました。しかし、それは高齢者の認知症でも同じことが言えると思います。若年性認知症では、介護する立場(特に未成年)の方は大変だと感じました。又、障害の就労支援と介護保険利用の支援方法は勉強になりました。主催者の皆様ありがとうございました。お疲れでございました。
- ・なでしこガーデンの見学したいです。
- ・若年性認知症の方の支援は多くの職種の方々の知恵と行動により支えられ成り立っていることが理解できました。研修を受けることができてよかったです。ありがとうございました。
- ・若年性認知症の患者さんはステージが次々に進んでいく事例が多いようなので支援が追いついていない状況があると感じた。
- ・大分県の支援状況等を詳しく説明して頂き、大変勉強になりました。早期発見が大事。
- ・同世代の方の認知症、自分が家族だったら、自分だったら、自分が支援者だったらと考えることが多くありました。
- ・宇佐市にも若年性認知症の方が身近にいるんだと知りました。自分と同世代の方なのにびっくりです。今回の話を聞きどのようなかわり方をしていけばいいのかとても勉強になりました。
- ・若年性認知症支援コーディネーターに相談出来るような機会を頂く研修になり良かったです。
- ・改めて若年性認知症の方の思い、家族の思いを知ることができてよかったです。各市町村に一つは若年性認知症の方の相談窓口とサービスがあればいいと思いました。
- ・若年性認知症コーディネーターが県で1人しかいない事を知りませんでした。色々な事業所やサービス、医療機関へのつながり、就労支援、年金や難病手続きなども行うこと、すごいと思いました。
- ・なでしこガーデンのことは知ってました。今回の研修で詳しくわかりました。認知症の方でも家族関係、年齢、環境(その中でも利用できるサービスが少ない中)でかわってくるんだろうなと思いました。若年性認知症の方を担当した際はぜひ相談したいです。
- ・若年性認知症の方へのサポートで本人を中心に次の居場所を探す事の重要性が知れました。40代でも発症している方もおり人数の多さにもおどろいた。
- ・若年性認知症は高齢者の認知症と違い立場や家族の状況などいろんな問題をかかえていることが理解できました。
- ・若年性認知症の方が「まだ働きたい。自分たちもだれかの役に立ちたい」の思いを事例などを聞いて本人の意思の重さ痛感しています。若年性認知症の方と関わる機会があまりないですが、受け入れる葛藤や生活のこと、家族のことなどさまざまな想いがあると感じます。「自分が...」と考えたとき不安、苦しみ、将来どうすべきなのかなど思ってしまった。若年性認知症の方が県内278人といわれてましたがまだあがってきていない方がいるだろうと思います。本人、家族の方が1人で悩まずに早めに相談できる、つなげることが大切だと思います。そして活動することで本人の役割ができ居場所作りにもなることを学びました。笑顔でいることが多いと聞いて本人の意思を聞くことの大切さと支援の関わり方の重要性を痛感しました。
- ・全国の若年性の方の割合を宇佐市人口で考えてみると25~30人は存在するだろうという和田先生の言葉が印象的でした。実際に若年性の方の相談を受けた経験は少ないが認知症は高齢者だけがかかる病気ではない、現役世代の人がかかると周りの人やその人のおかれている状況が高齢者以上に複雑化してしまいます。相談先を知ってもらう、認知症の理解、ネットワーク作り、相談があった時の対応をイメージする、準備することが自分の役割であると感じました。

- ・平均発症年齢は50歳代で働き盛りの時に認知症と診断され社会から取り残された気持ちになる、、考えただけでとても辛く耐え難い。また、子どもの年齢によっては親が認知症という事を受け止める事が難しい。ケアマネジメントの中で利用者の家族が50代、60代の方もいて「あれ、、、？」と思う事もあるので、今後はまた違った視点でみていく事も必要だと感じました。今日の研修で、若年性認知症支援コーディネーターの事を少し知れたのが大きな収穫であり、ケアマネージャーとしても知識を習得しておきたいと思いました。

《相談員・生活相談員》

- ・若年性認知症を患っていてもそれに気づかない方や潜在化している問題は少なくないと感じました。専門職として地域に発信していきたいと思います。
- ・どこに行くかより誰かと出会うかが大事、当事者同士のつながりが大事。事例について興味深く拝聴しました。
- ・発症年齢が若いことで、働き盛りで経済的な問題が大きい、主介護者が大変になる。適切な医療機関への早期受診、早期対応、治療継続の支援としてコーディネーターの役割は大切だし知らない人も多いと思います。大分県では何をしているのか？どうしたら良いかを知ってもらう事が一番だと思います。
- ・以前県庁の方にて研修に参加させていただいて今回2回目の若年性認知症の研修でしたが、資料と詳しい説明とで改めて勉強させていただきました。他施設への見学など行ってまた違う視点をもてるのではと思える研修になりました。ありがとうございました。
- ・若年性認知症に家族がなった時の焦り、どうして良いのかわからないというのが印象的で、事前に学習することで早期受診の重要性や社会資源の活用等知ることができて良かったです。

《介護福祉士》

- ・地域資源の少ない現状をどのように解決ができるのか。
- ・若年生認知症の方の現状と支援状況を学びました。ありがとうございました。
- ・実際に若年性認知症の方を目にした際にもどこに、どのように繋がったらよいか。
自身がどのような支援ができるかと考えた際に、大分県や宇佐市にどのようなサービスがあるかすら知らなかった自分がいます。今回の研修を通して大分県の現状やつなげ方、事例をもとにした支援方法など多くを学んだと思います。資料も印刷できましたので資料を参考にしながら、知識を深めていくとともに、年齢が若いだけに支援の難しさを感じながらも、最善の支援方法を考えていけるよう尽力したいと考えます。
- ・自分の周りにたまたま居なかつただけで、事例を聞いたときに自分はどうか対応するか、また、自分がなった時を考えました。やはり認知度が低く、対応可能な人材や事業所が少ないことが気になりました。若年性認知症を世間にもっと認知してもらい、対応可能な施設などが今後増えることを期待したいです。
- ・今まで若年性認知症の事は考えたことはなく家族や自分が若年性認知症になってしまったらと不安になりました。コーディネーターが都道府県に1名だけしかいないという事に大変だと思いました。いかに医療機関との連携が必要だと思いました。(職場、医療関係、支援機関など)家族交流会への参加で大きな心の支えになると思いました。

《ヘルパー・訪問介護員》

- ・ありがとうございました。

《事務職》

- ・若年性認知症の方に適した施設などのケアの必要性を感じました。
- ・県内をお1人で若年性認知症コーディネーターとして活動しているということでおどろきましたが、河面先生のあたたかくかつ熱い想いや活動においての関わり方を知り、大変心強く思いました。それを自分たちの地域にどのようにつなげひろげていくかを真剣に考え動いていくいいきっかけとなる研修でした。ありがとうございました。

《その他》

- ・高齢者と違い若年性ゆえの問題点をあらためて痛感しました。
- ・若年性認知症支援コーディネーターの活動を初めて知りました。65才未満という年齢は現役で仕事、子育てをしている年代です。若年性認知症と診断されたら家族・本人どうして良いか不安になると思います。家族や本人を居場所へつなぐ支援があるという事はとても心強いと思います。私自身まだまだ勉強不足です。また機会があったら参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・若年性認知症だからこその弊害を知り、本人のニーズに寄りそう支援がより大切になると思いました。就労を継続して休職手当を受け取るか、居場所づくりのため働き賃を受け取るか、選択がかなりむずかしいと感じました。
- ・認知症という診断がついた時、支援者も認知症の人という目で見えてしまっている事は今もあり何かしてあげないといけないといった視点でサービスを入れる事が多いと思う。「あれもできなくなった」「これもできなくなった」を見るのではなく、できる事を見つけてほしいと感じます。介護者の負担軽減を考える事も大切だとは思いますが、まずは本人がどうすごしたいのかに向き合ってもらいたい。居場所の大切さ。宇佐には少ない事。今後、推進員等と考えていきたい。
- ・若年性認知症の方の気持ち不安、自分の事のように思えました。いつ発症してもおかしくない病気なのでもし今自分がいいと思ったらこわいと感じました。でも支える人々やつながりがある事で安心して生活できるんだという事も分かりました。人に知られたくないという気持ちが自分にもおきると思います。そんな時こそ、相談する場所や人達がいる事で気持ちが楽になればと思いました。
- ・大分県には若年性認知症の方を受け入れてくれる体制づくりがまだまだ充分でないことが分かりました。今後早いうちからの予防が必要だと感じました。